

「大気環境学会誌」投稿規程

改訂：2010年6月1日

最終改訂：2018年1月10日

1. 総則

- (1) 本誌は大気環境に関連した諸分野の独創的な研究で、価値ある事実または結論を含む研究論文のほか、会員のために必要なそのほかの記事を掲載する。
- (2) 本誌に掲載された記事の著作権は公益社団法人大気環境学会に帰属する。
- (3) 英文による投稿は別に定める「英文投稿規程」による。

2. 原稿の種類

(1) 研究論文

研究論文は、原著論文、ノート、速報および技術調査報告の4種類とし、いずれも他誌に未発表のものに限る。なお、筆頭著者が博士号未取得の学生もしくは若手研究者であり、かつ、学生・若手研究者論文としての審査(本投稿規定4.(2)を参照)を希望する場合は、原著論文、ノート、技術調査報告のいずれかとする。

1) 原著論文

独創的な研究で、新しい知見、価値ある結論あるいは事実を含むもの。

2) ノート

断片的ではあるが、新しい事実や価値ある結論あるいは事実を含む簡潔な報告。

3) 速報

原著論文に準ずる内容を持ち、特に速やかに発表する必要のあるもの。この詳細は、後日原著論文として投稿されることが期待される。

4) 技術調査報告

大気環境研究に関する測定技術、調査結果など、その知見が大気環境に関する研究として貢献すると判断されるもの。

(2) 総説

大気環境の諸分野の研究に関連して、その分野の進歩の状況、現状、将来への展望などをまとめたもの。

1) 投稿によるもの

総説として投稿されたもの。

2) 執筆依頼によるもの

大気環境学会賞(学術賞、進歩賞)受賞者に対して受賞の対象となった研究の現状、将来への展望などについて編集委員会が執筆を依頼したもの。

(3) 解説

大気環境の諸分野における最新の調査結果、興味深い話題などについて専門外の人でも理解できるように解説を加えたもの。編集委員会からの依頼原稿を原則とする。

(4) 入門講座

大気環境の諸分野において確立した手法あるいは大気環境関連の研究を進めるうえで必要な技術、手法について、初心者でも分かるように記述したもの。編集委員会からの依頼原稿を原則とする。

(5) 資料

大気環境の諸分野の研究に関連した実験データ、観測データ、文献調査結果や委員会報告書などで、大気環境研究上および本会として記録する価値のあるもの。

(6) 論壇

大気環境に関する研究に関連して、いまだ一般的でないが、会員にとって意見交換を行うに足る主張や既発表論文に対する質疑、意見などをとりまとめたもの。

(7) その他

会員相互の交流に関する意見、ニュース、書評や掲載された記事などに対する訂正や意見、そのほか本会に関するもの。

3. 投稿

(1) 投稿原稿の筆頭著者は、投稿時に会員であること。

(2) 本誌に原稿の投稿を希望するものは、所定のテンプレートを使用して、その原稿を本投稿規程ならびに「投稿の手引」にしたがって指定の構成と書式により作成しなければならない。

(3) 投稿原稿の長さは、表 1 に示すページ数、文字数、語数以内とする。なお、文字数 2,700 で刷り上がり 1 ページに相当する。

(4) 投稿原稿は、本会事務局(原稿送付先は本投稿規定 7.を参照)に、①電子メールの添付ファイル、もしくは、②CD-R を書留または宅配便で送付するものとし、編集委員会への到着日をもって受付日とする。なお、以降はすべて電子メールの使用を前提とするが、不都合がある場合は投稿時に編集委員会にその旨を伝えること。

(5) すべての原稿は、投稿前に全著者に投稿について承諾を得ること。また、全共著者を CC に入れて投稿すること。

(6) 投稿原稿が編集委員会に到着後、受付日を電子メールで連絡する。送付後、1 週間を過ぎても連絡がない場合には、編集委員会に確認すること。

(7) 投稿原稿の送付時には、必要事項を記入した本会所定の投稿カードおよびチェック済みの入稿チェックリストを一緒に提出すること。投稿カードに記してあるチェックリストには確認のマークを付し、必要書類が整っていることを確認すること。また、入稿チェックリストにも確認のマークを付し、投稿に不備のないことを確認すること。なお、明らかな分野違いや書類・内容に不備のある場合は受け付けないことがある。

(8) 原稿の審査が終了し、その掲載が許可された場合、最終原稿の Word ファイルと印字確認のための PDF ファイルを電子メールにて本会事務局(原稿送付先は本投稿規定 7.を参照)に送付すること。

(9) 確認のための印字原稿は、図、表、写真が鮮明に印刷されていることを確認すること。なお、カラー印刷を希望する場合には印刷費用が発生する(本投稿規定 6 (1) 2)を参照のこと)。

(10) 本誌投稿原稿は、科学技術振興機構(JST)の科学技術情報発信・流通総合システム(J-Stage)に掲載され、一般に公開される(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/taiki/-char/ja/>)。

(11) J-Stage には、カラー印刷費用が発生することなく、カラー原稿を掲載することができる。J-Stage 用に、本誌原稿とは別のカラー原稿の掲載を希望する場合には、最終原稿を送付する時に、「J-Stage へのカラー原稿の掲載を希望する」ことを明記し、カラー原稿の Word および PDF ファイルも併せて添付すること。なお、J-Stage 掲載用原稿は、図と写真の色調以外については本誌原稿と同じであること。

表 1 刷り上り最大ページ数、文字数、語数

| 原稿の種類 | 原稿全体 (ページ数) | 和文要旨 (文字数) | 英文要旨 (語数) |
|--------|----------------|---------------|--------------|
| 原著論文 | 8 | 600 | 200 |
| ノート | 6 | 500 | 200 |
| 速報 | 4 | 300 | 200 |
| 技術調査報告 | 8 | 600 | 200 |
| 総説 | 8 | 600 | 200 |
| 解説 | 8 | - | - |
| 入門講座 | 8 | - | - |
| 資料 | 8 | - | - |
| 論壇 | 2 | - | - |
| その他 | 2 | - | - |

※ 文字数 2,700 で刷り上がり 1 ページに相当。

4. 審査

- (1) 投稿原稿は編集委員長、副編集委員長、担当編集委員、2名(速報は1名)の査読委員によって審査され、その採否は編集委員長、副編集委員長、担当編集委員の合議によって決定される。審査結果については3か月以内(速報は1か月以内)を目途に連絡著者に回答する。
- (2) 筆頭著者が博士号未取得の学生もしくは若手研究者の場合、著者は学生・若手研究者論文としての審査を希望することができる。学生・若手研究者論文は、速報に準じて審査する。採否の基準および方法は一般の投稿と同じであるが、より丁寧で具体的な修正意見を提示する。審査結果については1か月以内を目途に筆頭著者に回答する。
- (3) 著者は、査読委員の候補を3名まで提案することができる(投稿カードに記入)。なお、その3名の中から査読委員が選定されるとは限らない。
- (4) 依頼原稿は担当編集委員が審査し、編集委員長(もしくは副編集委員長)が採否を決定する。
- (5) 投稿論文審査手順を図1、審査判定後の手順を図2に示す。
- (6) 判定が採用(要微修正)の場合、著者は修正原稿を編集委員会に2週間以内を目処に提出する。担当編集委員が修正内容を検査し、すべてを承認した時点でその正式採用となる。修正が不十分な場合には、著者に再修正を求めることがある。正式採用した日をもって、掲載決定日とする。
- (7) 大幅な修正を必要とする論文に対しては採用(ただし条件付き)とし、3ヶ月以内に改定稿の提出を求め、これについて審査を行う(再審査)。再審査は、原論文と同じ担当編集委員と査読委員(ただし、不採用判定の査読委員を除く)が、原論文に対する審査意見への充足度を主観点に実施する。判定は採用(無修正、要微修正)と不採用のみとし、二度目の「採用(ただし条件付き)」はない。なお、著者が原論文とは別の担当編集委員、査読委員による審査を希望する場合には、新規論文として扱う。
- (8) 審査結果に異議がある場合には、書面あるいは電子メールで編集委員会に申し立てることができる。
- (9) I、II などのように分割して投稿された原稿、あるいは以前に投稿され審査中の論文の続編に位置付けられる原稿であって、別の原稿の掲載を前提としている場合、これらの原稿の採否判定は一体化して行う場合がある。
- (10) 正当な理由なく提出中の原稿を取り下げることはいできない。特に、掲載可と判断された原稿について、や

むを得ず原稿の取り下げや内容の変更が必要な場合は、全著者の同意書を添えて、理由書を編集委員会に提出し、承諾を得なければならない。

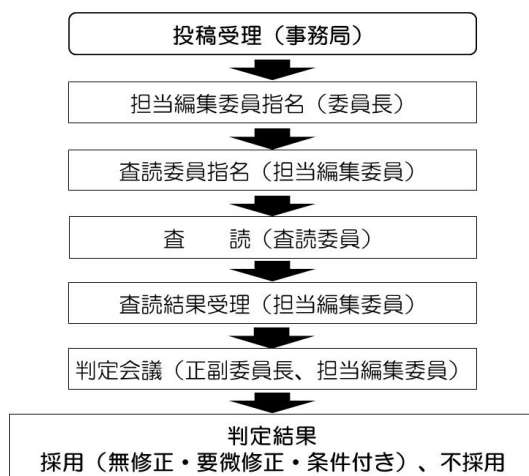


図1 投稿論文審査手順



図2 審査判定後の手順

5. 著者校正

著者校正は1回行われる。校正では、印刷上の誤り以外の字句の修正、あるいは原稿になかった字句の挿入を認めない。ただし、図表の挿入位置の変更は受け付ける。校正済みのゲラは速やかに返送すること。なお、カラー印刷の希望の有無を必ず回答すること。

6. その他

(1) 費用

1) 掲載料

投稿原稿(依頼原稿を除く)の掲載料は、50部の別刷代を含み、表2に定める通りとする。ただし、

刷り上がり 2 ページ以内の投稿原稿(研究論文と自主投稿による総説を除く)については無料とする。

表 2 掲載料金価格表

| ページ数 | 掲載料(別刷 50 部を含む) |
|---------|--------------------|
| 6 ページ以下 | 39,000 円 |
| 7 | 44,000 円 |
| 8 | 49,000 円 |
| 9 ページ以上 | 1 ページにつき 6,000 円増額 |

2) 特殊印刷費用

写真版、アート印刷、カラー印刷および版下代は投稿原稿、および依頼原稿を問わず著者の負担とする。カラー印刷費用は、1 ページ 5 万円、2 ページ 10 万円を基本とする。詳細については編集委員会に問い合わせること。

3) 英文校閲費用

英文原稿に関しては、著者の責任において英文校閲を行うこと。ただし、掲載が決定した和文原稿の英文要旨については、編集委員会が本会費用により依頼して校閲する。校閲の結果、修正を求められた英文要旨は、最終原稿送付時までには修正すること。

4) 別刷り代

掲載料には、50 部の別刷り代が含まれる。追加の別刷りは原稿の著者校正を行うときに 50 部単位で申し込むものとする。追加の別刷り代は 50 部あたり 3,000 円とし、別刷りにカラーページを含む場合は、別途、料金が発生する(料金については編集委員会に問い合わせること)。また、表紙は 1 件につき、6,000 円とする。このほかに、送料が追加される。なお、学会賞受賞者に対する依頼総説原稿については、別刷り 50 部を進呈するものとし、それ以上の部数については著者負担とする。また、依頼原稿および掲載料無料の原稿(上記参照)については、執筆者は表 3 の料金により別刷りを購入できる。

表 3 別刷り料金表

| 区分 | 50 部 | 追加 50 部ごと |
|---------------|----------|-----------|
| 刷り上がり 8 ページ以下 | 12,000 円 | 3,000 円増し |
| 刷り上がり 9 ページ以上 | 15,000 円 | 3,000 円増し |
| 表紙1点 | 6,000 円 | — |

(2) 原稿料

依頼原稿(解説および入門講座)については、所定の原稿料(刷り上り 1 ページにつき 3,000 円、ただし、24,000 円を上限とする)を支払うこととする。また、学会賞受賞総説原稿については記念品(図書券)を進呈する。

(3) 雑誌発行後の正誤訂正

- 1) 印刷上の誤りについては、著者の申し出があった場合はこれを掲載する。
- 2) 印刷上の誤り以外の訂正、追加などは、原則として取り扱わない。ただし、著者の申し出があり、編

集委員会がそれを適当と認めた場合はこれを掲載する。

7. 原稿送付先

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 29 番地 8 号公衛ビル

大気環境学会「大気環境学会誌」編集委員会 E メールアドレス:jsae@msf.biglobe.ne.jp

8. 著作権ポリシー（平成 25 年 6 月 14 日決定。原文は本会ホームページに掲載）

(1) 本誌の著作権は、大気環境学会^{*}に帰属する。

※「大気環境学会誌」投稿規程 1. 総則(2)

「本誌に掲載された記事の著作権は公益社団法人大気環境学会に帰属する。」

(2) 著作権本人のインターネットでの論文公開を認める。

公開条件として、権利表示、出典表示を行うこととする。

公開対象は、以下通りとする。

- 1) 著作者本人の Web サイト
- 2) 著作者の所属機関の Web サイト
- 3) 著作者が参加した研究プロジェクトの Web サイト

(3) 公開形態は、出版社版^{*}とし、著者最終稿や査読前原稿の公開は認めない。

※出版社版の定義

- ・抜刷(紙媒体)をスキャンしたもの。
- ・J-Stage などで公開されている論文の電子ファイルのコピー。

(4) これらの方針は、学会投稿規程などにおいて公開する。

※複写・転載のルール

複写・転載について、以下のルールにしたがって運用する。

| | | ルール | 備考 |
|------------|-----|--|------------------------------|
| 複写 | 著者 | 学術著作権協会の許諾が必要 | 従来通りのルール |
| 転載 (全部) | 同一 | 著作権ポリシーに従う | 転載については、学会マター |
| | 異なる | 著作権ポリシーに従う(ただし、公開対象は除く)。 本会編集委員会と著作者の了解が必要。 | 規定には明記せず、申し出があった場合のみ個別に対応する。 |
| 転載 (一部) | 同一 | 転載であることが明らかに分かるような情報を入れる。 原版と異なる数値への改変はしない。 | |
| | 異なる | | |

「大気環境学会誌」投稿の手引

改訂：2010年6月1日

最終改訂：2016年1月10日

1. はじめに

この「投稿の手引」は、「大気環境学会誌投稿規程」より論文などの投稿にあたり原稿執筆の際に従うべき必要最小限の約束が記されている。これに従わない原稿は受け付けられない場合があるので注意すること。なお、英文による投稿については Asian Journal of Atmospheric Environment への投稿を推奨する。

- (1) 投稿する論文は、大気環境に関連した諸分野の独創的な研究で、価値ある事実または結論を含み、投稿規程に示された条件を満たしたものでなければならない。
- (2) 筆頭著者は本会会員に限る。共著者は論文の完成に意義ある貢献を果たし、論文内容に共同の責任を負える者であり、またその範囲に限られる。
- (3) ほぼ同一の内容からなる論文原稿を複数の研究誌に投稿(二重投稿)してはならない。ただし、二重投稿か否かの判断がつかない場合は、事前に編集委員会の判断を仰ぐこと。
- (4) 論文は、その研究を他者が再現したり検証・評価したりするために必要な情報の出所、および論証の過程を明らかにしなければならない。
- (5) 引用した情報は、読者が入手可能なものでなければならない。
- (6) 投稿原稿には捏造、改ざん、あるいは他者の論文から盗用した情報が含まれてはならない。
- (7) 投稿原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は、必ず「方法」の項に倫理的配慮や研究対象者への配慮をどのように行ったかを記載すること。なお、ヒトを対象にした研究では、ヘルシンキ宣言ならびに文部科学省・厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」あるいはほかの適切な指針に従うこと。動物を対象にした研究では、実験が実施された組織における実験動物に係わるガイドラインに則した研究であることが求められる。倫理審査委員会の承認を得て実施した研究は、承認した倫理審査委員会の名称および承認年月日を本文中(方法)に記載する。また、利益相反がある場合は、投稿カードに必要な項目を記載する。

2. 投稿原稿の書き方

- (1) すべての投稿原稿は、この「投稿の手引」を参照して作成すること。
- (2) 速報として掲載を希望する場合は理由書(400字以内)を同時に提出する。
- (3) 論文は、読みやすく筋の通った簡潔な文章体とし、原則として常用漢字と現代仮名遣いを用いる。副詞、代名詞、接続詞はなるべくかなで書き、助動詞と助詞はかなで書く。
- (4) 投稿原稿はワードプロセッサで作成し、原則として電子ファイルは MS-Word(ver.97-2010以降)およびその PDF とする。他のソフトを使用する場合は、投稿時にソフト名およびバージョンを明記すること。なお、いずれの場合も印刷およびテキストのコピーが可能な形式で保存し提出すること。

3. 投稿原稿の構成

- (1) 投稿原稿は、以下の順とすること。
 - 1) 投稿カード
 - 2) 表紙(論文種別、論文題目、著者名、所属)
 - 3) 和文要旨

- 4) 本文(謝辞、引用文献含む)
 - 5) 英文要旨・英語キーワード
 - 6) 図および図題(写真も含む)
 - 7) 表および表題
- (2) 関連ある幾つかの論文を同じ題名で発表する場合は、題名にローマ数字 I、II、III で番号をつける。なお、その題名は途中で変更しないこと。また、これには副題を付しても良い。
 - (3) 著者が複数の場合には著者名、所属機関名にそれぞれ、○○○○¹、○○○○²のようにして記す。
 - (4) 図、表、写真の挿入場所は、本文欄外においてテキストボックスを用いて指定する。指定のない場合、レイアウトは編集委員会に一任となる。なお、図表の位置変更は著者校正時に受け付ける。

4. 投稿カード

投稿カードは本会ホームページから最新のものをダウンロードして作成する。

5. 原稿作成の注意事項

- (1) 所定のテンプレートを本会ホームページからダウンロードして作成する。
- (2) 英数字と単位のフォントは「Times New Roman」とし、その他は「MS 明朝」とする。フォントサイズはどちらも 11 ポイントを用いる。なお、所定のテンプレートに従えばその書式となる。
- (3) 句読点、カッコは 1 字に数え、原稿の書き始めおよび段落を改めた時の書き始めは 1 字あける。本文中の句点は「。」、読点は「、」を使用する。
- (4) カッコは原則として半角とし、「括弧開き(“の前)”と「括弧閉じ(”の後)”にそれぞれ半角スペースを入れる。角かっこ“[]”についても同様とする。
- (5) ローマ字は半角活字体で書き、専門用語は学会や文部科学省で制定されたもの(例えば、学術用語集化学篇など)によること。外国の人名、会社名などはローマ字で書くことを原則とする。ただし、周知の術語はカタカナ書きとする。本文中で引用する人名には謝辞を除き敬称はつけない。
- (6) 和文要旨は、本文の内容の学術的要点を伝えるためのものであり、本文の内容を忠実かつできるだけ具体的に書くこと。
- (7) 本文中の見出しは、1.緒言、2.実験、3.結果、4.考察などとし、中見出しは“1.1、1.2、・・・”、小見出しは“1.1.1、1.1.2、・・・”などとポイントシステムで書く。
- (8) 英文要旨は文献検索システムの英文データベースに入力されることを勘案し、本文の内容を原文で入手できない読者にもその学術的価値を判断できるように、研究のスキーム、結論を明確、具体的かつ簡潔にまとめること。また、英文要旨は、本文とは独立に理解できることが必要であるから、日本語で定義した記号、略語などは必ず英文で定義し、本文中の図、表、式などを引用しないこと。
- (9) キーワードは 6 個以内とし、英語で英文要旨の下段に書く。キーワードは論文内容の検索が正しく行える用語を使用すること。

6. 依頼原稿

- (1) 大気環境学会受賞者の総説、解説、入門講座は、編集委員会からの依頼を原則とする。
- (2) 依頼原稿の提出方法は投稿原稿と同様とする。
- (3) 依頼原稿には依頼原稿カードを添付する。
- (4) 依頼原稿の執筆要領は、投稿原稿と同様とする。

- (5) 依頼原稿についても査読委員の指摘事項を踏まえて適宜修正した最終原稿を編集委員会に提出する。

7. 図・表・写真

(1) 一般的注意事項

- 1) 図と表は重複を避け、必要最小限に留めること。
- 2) 図、表、写真の表題および説明文は、原則として英文(フォントは Times New Roman)で書く。
- 3) 表題には通し番号をつけ、Fig. 1 や Table 1 などのように書く。本文中で引用する場合にもこの表現を使って「下図」、「この表」などは用いない。
- 4) 図中のフォントは MS ゴシック、表中のフォントは本文と同様に日本語:MS 明朝、英語:Times New Roman とする。
- 5) 図表や写真を原著からそのまま転載する場合は、それらの出典を明記し、必要に応じて著作権保有者の承認を得ておくこと。
- 6) 図、表、写真をカラーで印刷する場合には、依頼原稿、投稿原稿ともに著者が実費を負担する。

(2) 図

- 1) 原稿 1 ページに 1 つの図を貼り付け、図の下部に図番号および図題を記載する。
- 2) 縦軸の説明は下から上へ、横軸の説明は左から右へ、それぞれ軸の中央に書くこと。
- 3) 図は刷り上がり時の大きさを加味して作成すること。この場合、線の太さ、フォントサイズ、文字と図のバランスなどを考慮すること。
- 4) 図表の全段印刷を希望する場合には、図表題の後にカッコ書きで「全段希望」と記載する。
例: Fig. 1 Outline of TaikiKankyo(全段希望)
- 5) 線の太さは 1.0 ポイント以上にする。これより細い場合には校正時に見えていても、印刷時に消えてしまうことがあるので注意する。
- 6) 図が不鮮明である場合には作り直しを求めることがある。

(3) 表

- 1) 原稿 1 ページに 1 つの表を貼り付け、表の上部に表番号および表題を記載する。
- 2) 表題はできるだけ簡潔にすること。表中の長い語句は略号などで置き換えてもかまわない。表題や表中の略号の説明は、* や *1・・・などの註の印を上付きでつけて表の下部に記す。
- 3) 数字は可能な限り小数点の位置でそろえ、縦に同様な数字がたくさん並ぶ時には、5 行ごとにスペース行をとること。
- 4) 表には枠線は可能な限り用いない。

(4) 写真

- 1) 原稿 1 ページに一つの写真を貼り付け、写真の下部に番号および題を記載する。
例: Photo 1 Outline of TaikiKankyo

8. 単位・記号

本誌の扱う学問分野は、理学、工学、農学、薬学、医学、気象学などの広い分野にわたるので、論文で用いる単位・記号の形式について厳密な規定はしない。しかし、以下に示す最小限の基準は設けることとする。投稿者はこれに従って原稿を作成すること。原稿審査の際に査読委員または編集委員から単位・記号に関する指示がある場合にはこれに従うものとする。

- (1) 原則として、表 1 に示す SI 単位を用いる。SI 単位を用いる時は定義を示す必要はない。この用法については、JISZ8203「国際単位系(SI)およびその使い方」を参照すること。
- (2) 表 2 に示す非 SI 単位についても定義を省略することができる。それ以外の単位を用いる場合は、例に示すように定義を明示する。

例：165 ft³ (1 ft³ = 28.3 dm³)

5350 BTU (1 BTU = 1055 J)

表 1 利用すべき SI 基本単位

| 物理量 | 単位 | 記号 | 物理量 | 単位 | 記号 | 物理量 | 単位 | 記号 |
|-------|-------|----|---------|-------|-----|---------|-------|----|
| 長さ | メートル | m | 物質質量 | モル | mol | 磁束密度 | テスラ | T |
| 質量 | キログラム | kg | 電流 | アンペア | A | インダクタンス | ヘンリー | H |
| 時間 | 秒 | s | 電気量 | クーロン | C | 束 | ルーメン | lm |
| 力 | ニュートン | N | 仕事率、電力 | ワット | W | 光度 | カンデラ | cd |
| 圧力、応力 | パスカル | Pa | 電圧、電位 | ボルト | V | 照度 | ルクス | lx |
| エネルギー | ジュール | J | 電気抵抗 | オーム | Ω | 放射能 | ベクレル | Bq |
| 周波数 | ヘルツ | Hz | コンダクタンス | ジーメンズ | S | 吸収線量 | グレイ | Gy |
| 熱力学温度 | ケルビン | K | 磁束 | ウェーバー | W | 線量等量 | シーベルト | Sv |

表 2 SI 単位系以外の許容単位

| 物理量 | 単位 | 記号 | 物理量 | 単位 | 記号 | 物理量 | 単位 | 記号 |
|-----|--------|-----|-----|------|-----|-------|---------|------|
| 質量 | トン | t | 平面角 | 度 | ° | 圧力 | トル | Torr |
| 時間 | 分 | min | 平面角 | 分 | ' | エネルギー | 熱化学カロリー | Cal |
| 時間 | 時 | h | 平面角 | 秒 | " | エネルギー | 電子ボルト | eV |
| 時間 | 日 | d | 体積 | リットル | L | 磁束密度 | ガウス | G |
| 温度 | セルシウス度 | °C | 圧力 | 気圧 | atm | モル濃度 | モラー | M |

- (3) 百万分率(ppm)は、体積比か重量比かを区別し、それぞれ ppm (v/v)もしくは ppmv、ppm (w/w) もしくは ppmw と論文の最初の箇所で示しておく。それ以降は ppm としてもかまわない。ppb や ppt の場合も同様である。
- (4) マイクロメートルやマイクログラムなどのマイクロには半角の μ を使用し、それぞれ、μm、μg などと表記する。
- (5) 物理量の記号は、なるべく慣用のものを用いる。慣用のものであっても論文の最初の箇所では定義を必要とする。
- (6) 数値と単位の間には半角スペースを挿入する。例外として”%”、”° ”、”°C”の場合はスペースを挿入しない。
- (7) 原則として、m/s や g/m³ のように記述し、m s⁻¹ や g m⁻³ のように記述しない。図中についても同様である。

9. 数式

- (1) 数学的操作を表す記号は、次のようにする。

$$\exp(-x), e^{-x}, \log x, \ln x, \Delta x, \delta x, dx, f(x) \\ df(x)/d(x), \sin x, \cos^{-1}x, \partial/\partial y, \text{grad}\Phi, \text{div}A$$

- (2) 原則として、物理定数や変数は斜体で、定数や演算記号はローマン体(立体)で表す。
(3) 文中に式を挿入するときは、 a/b 、 $\exp(-U/kT)$ のように書く。
(4) 独立した数式は、本文中のフォントサイズと同程度の大きさで明瞭に書く。式の上下には 1 行分のスペースを取り、式番号を (1) のようにつける。本文中では、図表と同様に Eq. 1 のように引用する。

$$C = \frac{Q}{2\pi\sigma_y\sigma_z U} \exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right) \left\{ \exp\left(-\frac{(z-H)^2}{2\sigma_z^2}\right) + \exp\left(-\frac{(z+H)^2}{2\sigma_z^2}\right) \right\} \quad (1)$$

10. 化合物名・化学式

- (1) 本文中では化学式を使わないで化合物名で書く。化合物名の名称は原則として、IUPAC 命名法に従い日本語名で書く。論文を簡潔に読みやすくするため、紛らわしくない場合には、元素は記号で、簡単な無機化合物は化学式で表しても良い。ただし、イオンの電荷は Fe^{3+} 、 SO_4^{2-} のように表示し、 Fe^{+++} 、 SO_4^{-} 、 SO_4^{-2} とはしない。
- (2) 化合物を略記号で表す場合、本文で最初に述べる際に正式の化合物名にカッコをつけて略記号を付記すること。
例：ベンゾ[a]ピレン(以下、BaP)
- (3) 化学反応式は、「本投稿の手引 9. 数式」に準じる。
例： $\text{NO}_2 + h\nu \rightarrow \text{NO} + \text{O} \quad (1)$
 $\text{O} + \text{O}_2 + \text{M} \rightarrow \text{O}_3 + \text{M} \quad (2)$
- (4) 元素記号を表す記号は全てローマン体(立体)とする。
例： PO_4^{3-} 、 C_2H_6 、 $(\text{CH}_3)_2\text{NH}$
- (5) NO_x の x は、小文字 x を下付きにすること。ほかの類似のケースも同様とする。
- (6) $\text{PM}_{2.5}$ の 2.5 は下付きとすること。他の類似のケースも同様とする。
- (7) O_x などは、 x が原子の個数を示す場合は" O_x (下付き、斜体)"とし、Oxidant の略称として用いる場合は" O_x "とする。

11. 引用文献・脚注

- (1) 引用文献の表示方法は下記のとおりとする。
- 1) 本文中での引用は、「該当人名に(年号)」、あるいは、「事項に(人名, 年号)」をつけて引用する。なお、人名と年号の間は点「、」ではなく、カンマ「,」を用いる。
例：Bladley (1995)、藤井(2004)
「・・・を報告している(Bladley, 1995)」、「・・・を明らかにした(藤井, 2004)。」
- 2) 該当人名が 2 名の場合および 3 名以上の場合には次の例のように記述する。
2 名の場合 : Bladley and Young (1995)、藤井と飯田(2004)
3 名以上の場合 : Bladley et al. (1995)、藤井ら(2004)

- 3) 引用文献は、下記に示す例のように書き、第一著者の頭文字のアルファベット順に記載する。和文文献も、対応するローマ字によって英文文献と区別せずに、アルファベット順に記載する。
- 4) 同一著者で同一年号の場合には年号の後に、a、b、c のように小文字のアルファベットを順番につける。
- 5) 英文タイトルのある和文文献については、なるべく英文で記し、末尾に [in Japanese] とする。
- 6) ウェブサイトを引用する場合、本文中にはサイトの管理者および開設日、掲載日、更新日などの日付のうち最新の年を表示することとし、日付が特定できない資料は引用不可とする。また、引用できるウェブサイトは原則として、公的機関による公開資料やデータダウンロード元とする。

【学術雑誌掲載論文】著者名：題名、雑誌名、巻、ページ(出版年)。

- (例) Bladley, Y. A.: Carcinogenicity of ……, *J. Atmos. Environ.*, **85**, 156-161 (1995a).
 Bladley, Y. A.: Epidemiology of ……, *Asian J. Atmos. Environ.*, **12**, 82-87 (1995b).
 藤井 正, 飯田一郎: 植物の成長に与える大気汚染の影響, *環境学会誌*, **76**, 38-45 (2004).
 Kono, O., Heikawa, K., Suzuki, K.: Diffusion of air pollutants, *J. Jpn. Soc. Environ.*, **31**, 95-100 (1996) [inJapanese].

【単行本】著者：書名、ページ、出版社名、出版地(出版年)。

- (例) Lunau, F., Reynolds, G. L.: *Indoor Air Quality and Ventilation*, 2nd ed., pp.122-126, Selper Ltd., London (1990).

【単行本掲載論文】著者名：題名、(書名、編者名、総ページ数、出版社名、出版地)、ページ(出版年)

- (例) Holst, P. A. J.: Bioaerosol related health effects of indoor air (*Indoor Air Quality and Ventilation*, Lunau, F., Reynolds, G. P. ed., 470, Selper Ltd., London), pp.331-338 (1990).

【ウェブサイト】発信者名：題名(開設日等の年)、ウェブアドレス(最終アクセス日)

- (例) 大気環境学会: 環境基準の改訂について(2010), <http://www.jsae-net.org/> (2011.7.25 アクセス)。

- (2) 欧米雑誌名は、国際的な慣用に従ってピリオドを用いて略記すること。「大気環境学会誌」の場合には、「大気環境学会誌」と書き「本誌」としない。
- (3) 著者名は全員を記載し、原則として et al. としない。
- (4) 印刷中の論文を引用する場合は、著者名、題名、投稿誌名をつけ、末尾に「印刷中」と記す。投稿中を含む未発表の論文や私信は引用文献とせず、文中にて()つきで記す。
 (例) (Sato, I., *Atmos. Environ.*, 投稿中)、(佐藤, 私信, 2009)
- (5) 脚注が必要な場合は、本文に^{注1}、^{注2}のように通し番号で示し、本文の最後にまとめて記載する。

以上